

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2002

11/1

NO.830 毎月1日発行



深まりゆく「変革」



●特集

いきいきとした
小田原が好き！

「小田原らしさ」あふれる魅力的なまちに 中心市街地活性化に向けて推進本部を設置

自動車社会・情報化社会が定着し、駅前という立地だけで人をひきつけることが難しくなっている現在、中心市街地には、郊外の大規模店やインターネットでの買い物などとは違う「新しい価値と役割」が求められています。市では、小田原TMOや商業関係者、市民の皆さんと連携して、新たな中心市街地の創生に取り組んでいきます。

◎産業政策課 33 1 5 1 9



「あじわい」と「にぎわい」の
あるまちに

中心市街地を取り巻く環境には、大型店の相次ぐ閉店などでお客さんが減ったこと、後継者不足などさまざまな要因で空き店舗が増えたこと、駅周辺の駐車場や道路交通の状況、都市基盤整備の問題などが、いろいろな要因が複合的に絡み合っています。

市では、中心市街地の活性化のため、推進本部を9月に設置しました。今後、さまざまな活性化策を展開していきます。また平成15年3月には、小田原駅東西自由連絡通路の一部が使えるようになります。新たな中心市街地の創生に向けて、小田原TMO、商業関係者、市民の皆さんと強いパートナーシップを築き、歴史・生活文化に根ざした「あじわい」のあるまちを形成し、「にぎわい」を取り戻すことによって、中心市街地の活性化につなげていきます。



小田原市中心市街地
活性化推進本部

「中心市街地活性化推進本部」設置

中心市街地の持つ、交通拠点機能・観光機能・公共施設の集積などの特性を生かした、新たな活性化策を展開していくために設置し、商業者や各種団体などによる活性化事業への支援などを行っていきます。あわせて、城下町の魅力を生かした緑化・せせらぎ・バリアフリーなどの整備方針を定める「中心市街地アメニティデザイン推進委員会」を設置。だれもが快適な時間を過ごせるような都市空間づくりを目指します。

まちの再生を目指して 商店街による「実験」開始！

中心市街地の再生には、「何度でも訪れたい」ような店「愛されたい」店「小田原らしい店」が欠かせません。そこで、中心市街地の5商店街で結成している「ほっとフアイトアウン」では、店主と市民の皆さんの協働で作りに上げる「商店街リニューール・コンペ」を行うことにしました。

商店にとっては、利用される方などの意見を聞いて、斬新なアイデアや活力あるパワーを積極的に受け入れた方が効果的です。利用者にとっても、「こんなお店があったらいいな」という理想を、直



まちのエネルギーは 人のエネルギー

ほっとファイブタウン代表
佐久間信行さん



「ほっとファイブタウン」は、駅周辺の5つの商店会が、自分の通りだけにこだわらずに地域全体を魅力あるエリアにしようと、平成11年6月に作った組織です。商店街は言ってみれば一つの線ですが、やれることから連携をとって協力しあうことで、この地域を一つの面にできる、と考えたのです。

私は、商店街が衰退した理由の一つは「コミュニケーション不足」ではないかと思っています。メールやファックスなどで用件は伝えられますが、それでは熱意までは伝わらないでしょう。直接会って話すことは何事においても基本なんです。

それと、おもしろいことに取り組む店が増えたら、元気のある人がまちに集まってくるのでは。元気なまちは元気な人がいます。そして魅力ある人がいるから、魅力あるまちになれるんです。

自分たちのまちを良くするために、これからいろいろなことに取り組んでいきたいと思ひます。



接伝えられる絶好の機会となります。

そこで今回のコンペでは、現在商いを行っている個々の商店を生まれ変わらせると同時に、小田原のまち自体をもっと魅力ある空間に再生させるきっかけとなるような店舗リニューアルのアイデアを、広く募集することにしました。

寄せられたアイデアは審査して、対象となる店舗それぞれに、導入する企画を決定します。そして、店主とコミュニケーションをとりながら実際にリニューアルし、その店舗で7日間実験的に営業して

小田原宿観光回遊バス 運行中!

●小田原TMO事業推進室

☎2318111



観光客や市民の皆さんから好評いただいている回遊バスが、今月いっぱい運行しています。

石垣山一夜城や小田原漁港、松永記念館など、バスルートの周辺は秋の魅力がいっぱい。観光・買い物・まち歩きに回遊バスを利用するのもも少し足を延ばし、素敵な週末をお過ごしください。

●バスの運行時間 10時〜16時

●小田原駅から、毎時0分と30分に出発します(13時発は運休)

●小田原駅東口バス乗場1番から、30分に1便、1周およそ1時間

●運行期間 11月30日(土)までの、毎週土・日曜日、祝日

●料金 1人100円(資料代)。当日に限り乗り降り自由

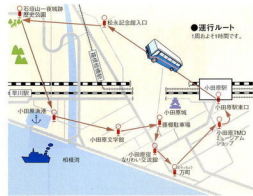


みます。

市民の皆さんの力で、個々の店が変わり、そこが起点となってまちが変わっていくのかどうか、小田原のまちの再生を目指す壮大な「実験」が始まります。

●商店街リニューアル・コンペ事務局 (ほっとファイブタウン事務局内) ☎2271800

●運行ルート



●小田原TMOとは... 中心市街地の特性や資源を最大限に生かしながら、創意工夫を基本に、他都市にはない小田原独自の活性化策を推進することが目的のまちづくり機関で、小田原TMOミュージアムショップの運営や、小田原宿観光回遊バスの運行などを行っています。

●特集
いきいきとした
小田原が好き!

市民参加で交通バリアフリーの まちづくりをめざしています

交通バリアフリー基本構想策定中!

「交通バリアフリー」とは、高齢者や身体障害者、妊産婦、けが人など、だれもが安心して公共交通機関などを利用して移動できるまちづくりを目指すもの。市では、「交通バリアフリー法」に基づいて、基本構想の策定に取り組んでいます。そして、この構想策定の対象地区となる「重点整備地区」が、小田原駅(JR東海道本線、JR東海道新幹線、小田急小田原線、箱根登山鉄道、伊豆箱根鉄道大雄山線)とその周辺地区に決定しました。

◎都市総務課 33 1 2 6 7

小田原駅周辺地区を 「重点整備地区」に

重点整備地区の対象となるのは、1日の平均利用客が5,000人以上の駅を中心とした地区で、市内には対象となる駅が6駅(小田原駅・鴨宮駅・国府津駅・蛸田駅・富水駅・栢山駅)あります。そこで、今年3月に身体障害者の方を対象に行ったアンケート結果

を分析するとともに、5月に発足した、学識経験者や公共交通事業者、行政、公

果を分析するとともに、5月に発足した、学識経験者や公共交通事業者、行政、公
衆で集まった市民の皆さんなど30人で構成される「小田原市交通バリアフリー基本構想策定協議会」において、各駅のバリアフリー化の状況や利用状況、駅周辺

の公共施設などの集積状況などを調査し、多方面から検討を行いました。

その結果、小田原駅は利用者数が非常に多く、公共施設などの集積状況も高い地区であること、鉄道5社が乗り入れパスの発着点でもあり、高いターミナル機能を担っていること、小田原駅東西自由連絡道路の整備が進められていて、周辺に再開発事業などの大型プロジェクトが予定されていることなどを、重点的かつ一体的に整備を進めるべき地区として、小田原駅周辺地区を「重点整備地区」と決定しました。

市民参加で「まちあるき点検」

市では、重点整備地区における基本構想を今年度中に策定する予定です。そしてその検討にあたり、市民と行政、公共交通事業者の協働のまちづくりをめ

し、いろいろな立場の方の意見を反映することができるよう、「ワークシヨップ」を行っています。ワークシヨップとは、あるテ





「危険箇所チェック」「歩道上障害物チェック」「歩道状況チェック」「情報提供・休憩施設等チェック」など役割分担を決めて、駅前広場・歩道・案内施設・バス停・信号機などをチェック。

「ゆっくり歩いてまちを見ると、歩道に商品や自転車が置かれている間題点に気がつきやすかったです。いろいろな間題点に気があるとよきそどうですね」と話すのは、建築関係の仕事をしている太栗勝典さん。「だれもが安心して移動できるまちにするために、整備する人たちの本当にこれでもいいのか、安全かと確認する心がけが大切ななあと感じました。利用者の意見を聞いて、反映させていくことも必要ですね」。

横浜国立大学の学生、行政職員など、およそ60人。当日は激しい残暑の中、だれもが安全にまちを歩け、安全に移動ができる環境とは何かを共に考えながら、4グループに分かれて小田原駅とその周辺地区を実際に歩いて点検し、その結果を地図にまとめてみた。

市民の皆さんや、市役所の皆さん、行政職員など、およそ60人。当日は激しい残暑の中、だれもが安全にまちを歩け、安全に移動ができる環境とは何かを共に考えながら、4グループに分かれて小田原駅とその周辺地区を実際に歩いて点検し、その結果を地図にまとめてみた。

「安心して歩けるまち」にするには？

そして10月5日には、第2回のワークショップを開催。各グループで点検した課題や間題点などについて整理し、その改善案を含め、グループごとに点検結果の発表も行いました。その結果、「歩道のブロック舗装に凹凸がある」「歩車道の区別が分かりづらく危険な箇所がある」「連続的な点字ブロックの設置が必要」「音声や点字での誘導を含め、案内表示などの情報提供物が少ない」「歩道上に放置自転車や看板などの障害物が多い」などといった、さまざまな間題点が出されました。メンバーの皆さんは、普段歩き慣れているまちに多くの課題があることに驚いていました。



「それぞれの立場から意見を聞くことができて興味深かったです。『みんなにとっぴ』というものが難しいことだとも実感しました」とは、細谷八重さん。「せっつかく各点が整備されても、それが線となつてしまわないという意味がないようにも思いました」。

矢野公代さんは、「視覚や聴覚に障害のある方、車いすの方、ベビーカーの方などともまちを歩いたことで、一人では気づかないいろいろな意見が出ました。だれがいつどんな障害を持つても、不目



由なく仕事に出かけたり遊びに行ったりできるまちであってほしいけれど、どうしても改善の困難なところでは、声をかければ気持ちよく手伝ってくれるようなまちにしたいですね」と感想を話してくれました。

ワークショップで出された意見は、基本構想の策定に役立てていきます。

「交通バリアフリー法」とは…

正式名称は「高齢者・身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」。急速な高齢化の進展と、障害のある人が障害のない人と同等に生活し活動できる社会をめざす「マイライゼーション」の理念に伴い、高齢者や身体障害者の方たちが自立した日常生活と社会生活を営めるように、公共交通機関を利用して移動するときの利便性と安全性を向上させようと、平成12年11月に施行されました。

この法律では、鉄道の駅といった旅客施設の施設・大改良、バスや鉄道車両などの新規導入の際のバリアフリー化が義務づけられ、市町村が作成する基本構想に基づき、公共交通事業者、道路管理者、都道府県公安委員会などが、旅客施設や周辺の道路、駅前広場、信号機などのバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進することになっています。

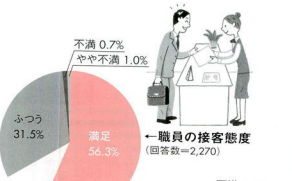
そこで小田原市では、平成14年5月7日に「小田原市交通バリアフリー基本構想策定協議会」を設立し、基本構想の策定に取り組んでいます。



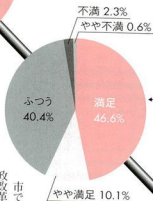
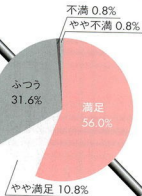
よりいっそう、 窓口サービスの 向上に努めます

窓口サービス出口調査結果

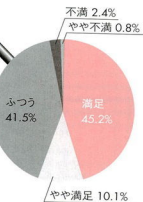
行政経営室 ☎33-1305



職員の説明→ (回答数=2,232)



待ち時間→ (回答数=1,989)



市では、今年2月に策定した新たな行政改革大綱「おだわら改革宣言2002」の重要な柱の一つとして、「市民満足度の高い顧客志向の行政サービスの提供」を掲げ、窓口サービスの向上に取り組んでいます。

その一環として、職員による「窓口サービス向上部会」を設置し、8月26日から5日間、市役所2階ロビーと市内12か所の支所・連絡所で、出口アンケート調査を行いました。「対応した職員の接客態度」「きちんとした説明をしたか」「長時間お待たせしなかったか」など、設問は9項目(支所などは7項目)。それぞれについて、満足・やや満足・ふつう・やや不満・不満の5段階で評価をいただきました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございます。

市長随想

心に残った「電車の話」

文 小澤良明

A君は幼い頃から鉄道が大好きだった。たま〜母親に連れられて始めて乗った江ノ電。小さな箱形の車両は観光客や買物婦りのおばさんやら賑やかで、その生き〜とした情景や通り過ぎる車窓の風景が幼な心に強く焼き付いた。そしていつの頃からか、大きくなったら必ず江ノ電に乗って働きたい、そんな夢を持つようになった。高校3年で就職の時、あんなにあこがれた江ノ電はあいにく新入社員採用をしなければならなかった。翌年も彼はひたすら待った。昨年やっと受験できて、四年越しの夢かない合格通知を受け取った。今、彼は江ノ電の新人車掌として眼を輝かせ懸命に働いている。

少し前の新聞に載った記事で概略こんな内容だったように思う。心を動かされるような話は昨今余り耳にしないが、この話には正直じんとして何度か読み返した。

親戚が腰越にいて私も学生時代よく江ノ電に乗った。連担する家々の軒端や外壁すれ〜にゴト〜走る江ノ電。さら〜光る湘南の海と緑の丘陵の間をグオン〜と飛ばす江ノ電。数十年前の自分の想いが鮮やかに脳裏に甦って、A君の気持ちが届くほど伝わってきた。

A君の夢を大切に受け止め常

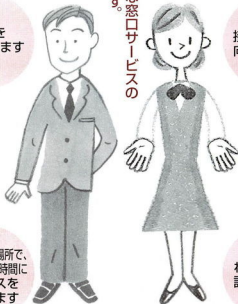
職員の接客態度について、67%の方に「満足」あるいは「やや満足」と評価していただきましたが、一方で「言葉づかいが悪い」「感じが悪い」などのご指摘もいただきました。

従来の接客研修だけでなく、職場内でのチェックを徹底するなど、接客マナーのいっそうの向上を図ります。

結果をふまえて、次のような窓口サービスの改善に取り組んでいきます。

接客マナーを向上させます

わかりやすい説明をします



窓口を便利にします

必要とする場所で、必要とする時間にサービスを提供します

「長い時間待たされた」「長い時間待たされることについての説明がなかった」「案内の案内表示がわかりにくい」などのご指摘をいただきました。

主に転入転出に伴う諸手続を中心とした「総合窓口」を設置し、「迅速・丁寧・親切・わかりやすい」を基本としたサービスを提供していきます。

よりよいサービスを
提供します

窓口サービス向上部会リーダー
市民部次長 石井徹夫さん



このたびの出口調査では、私たちの予想をはるかに超える2,300人以上の方に「回答いただき、スタッフ一同感謝しています。」

お忙しいにもかかわらず、快くご協力いただき、中には「以前に比べるとよくなりました」「がんばってくださいますし声をかけてくださる方もありました。しかし「感じが悪い」「相変わらずお役所仕事だ」というご指摘も多く、まだまだ改善の余地があると感じました。

今後、部会では、この調査結果をもと

に窓口サービスの改善を図り、一人でも多くの方に「満足」と答えていただけるように努めます。



「わかりやすい説明がなかった」「文書での説明がなかった」「用紙の書き方がわかりにくい」などのご指摘をいただきました。関連するサービスのお知らせや、わかりやすい説明書づくりを心がけます。

来年3月末末にオープンする小田駅東西自由連絡通路内に「行政窓口コーナー」を設置し、利用時間を延長したり、休日・祝日にも開設したりするなど、市民の皆さんがより利用しやすい施設とします。

アンケートの詳しい結果については、ホームページでご覧いただけます。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gyokei/index.html>

深い愛情、地域の電車江ノ電の使命の何たるかをキチッと認識し、その魅力の色あせること無く磨き続ける会社の経営姿勢、何よりもA君の真つ直ぐで一途な江ノ電への愛着、決してあきらめないでどう／＼夢を手にしたその執念、迫力、胸を打たれるのは私だけであろうか。なか／＼ある話ではない。

最近小田原でも似たようなことを聞いた。やはり小さな頃から大井川線の大ファンで、自分の家は必ず線路の傍に建てたい、そんな心で誓った彼、Bさんは、仕事の合間を見つけては希望の地を探し続け、遂に宿願を果たした。のびやかに走る電車の姿と普通なら騒音と言われかねない車輪の音を間近に見聞きしながら、今幸せ一杯のマイホーム暮らしという。当然あの独特の赤い車両の箱根登山電車にも強い愛情を持つ沿線住民も多いことだろう。

地域を走る電車は、地域の風光や行き交う人情やあたたいたまなざしを受けてひた走る。真つ直ぐに延びる線路は地域に根づき、A君やBさんのような熱い想いを育む。こうありたい、そう一筋に思う。願いは必ず聞き届けられるものだ。近頃心に残ったちよつといひ話である。





北條にとつて 小田原は第2の故郷

北條秀司（大阪生まれ、本名飯野秀二）にとって、小田原は、劇作家としてのスタートを切った第2の故郷ともいえるべき地です。ペンネームとした「北條」(命名は師である劇作家・岡本綺堂、小田原北條氏からとったもの)です。

北條は、昭和3年5月、箱根登山鉄道株式会社事務責任者として、国府津海岸に來住しました。以後、今も続く箱根大名行列や大文字焼等の行事を手がけるなど、小田原・箱根の観光開発に力を尽くす一方で、岡本綺堂の門下となって劇作の研鑽をつみ、昭和12年には処女作『表彰式前後』、次第に劇作家としての地歩を固めていきました。

昭和14年、師岡本綺堂の死をきっかけに、劇作家として独立することを決意した北條は、会社を辞職して、東京麻布に転居

小田原で こんな大劇作家が 活躍していた！

北條秀司の
偉業をたどる



「王将」の表紙



小田原寛久旧宅



長谷川伸・北條秀司ほか寄書

舞台や映画などでおなじみの『王将』をはじめ、『京舞』などの名作劇の作者として知られる北條秀司。その旺盛な創作活動によって生涯に生み出した劇作は230作余り、著書などは合わせて140冊以上にのぼり、わが国最高の劇作家と評されています。平成8年、多くの年齢で惜しまれつつ、93歳の高齢で死去しましたが、7回忌を迎える本年は、その生涯から100年という記念の年にもあたりまふ。

そこで、小田原文学館・白秋童謡館では、この北條秀司の偉業と生涯をたどる特別展を開催しています。

●市立図書館 241056

自宅に残された 近代演劇史の重要資料を公開

昭和23年に小田原を後にした北條は、その後鎌倉に住み、平成8年に亡くなりました。大船の自宅には、北條自筆の原稿類や劇作のための取材資料、数々の遺品、暮らしぶりをそのままに写した貴重



舞台演出風景



色紙「死なんぞ」

好評
開催中

第9回 小田原文学館 特別展

生誕100年 —北條秀司の偉業と生涯

日時 12月1日(日)まで、9:00~17:00
(入館は16:30まで)
場所 小田原文学館2階・
白秋童謡館2階
入場料 大人250円、小中学生150円

特別展監修者・北條美智留さん
「父北條秀司の生涯100年にあたるこの節目の年に、ゆかりの地小田原で、このような展示会が開催されますことを大変うれしく思います。この展示が、ご縁ある方々とともに父を偲ぶよすがとなれば幸いです。」



教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。

秋も深まり、気温が下がると体を動かすことも
つついっけがちなもの。スポーツで心身
ともに鍛えましょう。

◎教育総務課 ☎33-1671



教育、私はこう思う！
vol.12

テーマ「スポーツと教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

子どものスポーツについて

最近、外で遊んだり好んで運動をする子が減ってきているようです。体を動かすことは、子どもの基本だと思うのですが、このままでいいのでしょうか。家庭で学校で地域で、もっとスポーツをしませんか。

体力と知力について

体力をつけることが心や能力を育てることになると思います。ゲームやテレビ、携帯電話中心の生活では、

体力は衰えるばかりです。外での遊び場の少ない今日、もっと運動に力を入れてもよいのではないのでしょうか。

遊ぶことについて

小学生が校庭で元気よくサッカーをしている姿をよく見かけます。好きなことに懸命になれる環境があることは大切であると感じました。

スポーツ教育について

礼に始まり礼に終わる。スポーツ

が、子どもの教育には最もふさわしいと思います。あいさつ・ルールなどが自然に身につけ、また親と子どもが一緒に楽しめて共通の話題にもなります。

ウォーキングするときのマナーについて

毎夕方、横1〜3〜4人のグループが歩道を横一列に並んでウォーキング。人の迷惑などお構いなしです。体の健康と同時に大人もマナーを大切にしてほしいと思います。

いかがでしょうか。子どもたちの体力低下が叫ばれています。子どもも大人も一緒になって、積極的にスポーツで汗を流し、健康づくりをしましょう。スポーツを通して学ぶことはたくさんあるのですから。皆さんもこのコーナーを読んで感じたことを、忘れないうちにぜひ近くの人と話してみてください。それが教育論議への第一歩となるのです。

支所、連絡所、小・中学校などに置いてある「意見カード」のご意見もお待ちしております。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/>

オーストラリア・ リフレックスシユステイ 現地通信

オーストラリアに1か月かかろうか月の間滞在し、牧場体験や日常生活を通して心身をリフレッシュする「オーストラリア・リフレックスシユステイ事業」。今回は、伊庭功明さん(板橋)から届いたレポートを紹介いたします(伊庭さんは9月に帰国)。

◎市民交流課 ☎33-1707

牛たちと自然のふれあい ：私の牧場体験

牧場の朝は早く、6時には目が覚めます。今日は快晴、シームレスの青空というのだそうです。牧場の丘に朝日が当たり始めました。鳥の音が聞こえます。

7時半に干草を牛に与えます。四輪オートバイの前後に干草を乗せ、和牛やジャージー牛、ホルスタインなど大きな牛がいるパドックへ投げ込みます。これが朝一番の仕事。ほかの牛は、10くらいのパドックに分けられて、自然の草だけで育っています。何しろ40万坪もある広大な牧場なので、自然の草だけでほぼ十分なのです。牛舎もなく、夜は木陰で眠り、自然の中で育っている牛を、私は初めて見ました。

昼ごろまで牧場の石拾いを少し。転がっている石を一か所にまとめ、後でブルドーザーで牧場内のダムを造る場所へ運搬します。

午後、時々、宿舎の暖かいくるための薪割りをします。これは、子どもたちの薪割り体験が大いに生きました。おかしかったのは、私が薪割りをしているとき、どういふ訳か若い牛が20頭ほど集まると、私を取り囲んで、

終わるまでじっと見ている。牧場のウエインさんが「観衆が随分たくさん集まったね」と笑っていました。

日役のころになると早春の山の風は急に冷たくなります。日中は23℃くらいまで上がり、シャワー牧の快適な気候ですが、夜は10℃以下になることもあります。薪を燃やす暖房の暖かさ、草原の草で育った牛肉のうまみ、野山に飛び白や色とりどりの野鳥、ブルーマウンテンの断崖、ウエインさんが「キングダーデンの子どもたち」と呼ぶ子牛たち、これが私の牧場体験でした。お会いした人たちに感謝、どうもありがとう。



のびのびと育つ牛たち



伊庭さん(メガロンバレーにて)

伝統・その技と映え

「小田原漆器特別展」開催

◎産業政策課

☎331515



小田原漆器は、生活に密着した漆器として作られています。原材料に、堅くて丈夫な櫨を使っているため、木目が鮮やかで美しいこと、何度も漆を塗り重ねているために丈夫で長持ちすることが特徴です。また、使えば使うほど手になじみ、味わいも出てきます。

漆器は、木を削り出して器の形にする「木地挽き」と、その器に漆を塗って仕上げる「塗り」の分業制で製作されています。

今回の特別展では、小田原の名工が作りあげた作品を展示するほか、なかなか見る機会の少ない、伝統工芸士による「ろくろ」を使った木地挽きの実演を行います。

また、漆器を身近に感じてもらうため、朱の漆の器に黒漆の模様を描き出す漆器の研ぎ出し体験もできます。世界に一つしかない、自分だけの漆器を研ぎだしてみましよう。

日時 11月22日(金)～24日(日)10:00～17:00

場所 小田原宿なりわい交流館

※漆器の研ぎ出しには、材料費(実費1,500円程度)がかかります(体験で作成した漆器は持ち帰れます)。

市内の255の自治会では、毎年その地区の状況に合わせて、燃せるごみ、びん、缶を拾い集めたり、草むしりや水路の清掃をしたりしています。平成13年度は、延べ153回行われ、燃せるごみは55t、燃せないごみは3tもの量が集められました。皆さんの一年間の地道な清掃活動が、このような大きな成果として現れたのです。

一人一人の力は小さくても、たくさん集まれば、大きな成果を上げることができます。市民の皆さんそれぞれが家の周りのごみを拾い集めたら、一人で集められる量は少しでも、市全体で考えたらたくさんのごみが集まっていることになりませんか。何より、それぞれが少しずつ努力したことで、まち全体が確実にきれいになっていくのです。

今年の「全市一斉清掃の日」は11月10日(日)です。きれいで住みよいまちづくりのために、小さな力の一つになって家の周りを清掃してみましよう。



11月10日(日)は
全市一斉清掃の日

◎環境総務課 ☎33-1475

木工の技を支える

「伝統工芸フェスティバル」開催



◎産業政策課 ☎33151515



県内には、小田原漆器・箱根寄木細工・鎌倉彫など、古くから伝えられてきた木工技術があります。11月は、「伝統工芸品に親しみふれあう月」に指定されています。そこで、人に優しい木の温もりを直接肌で感じていただくため、県内の伝統工芸品の調査研究を行っている「県産業技術総合研究所工芸技術センター」で、展示品などを公開するほか、ろくろ細工・糸のこミシン・箱根寄木細工の実演と解説を行います。16日には、「伝統工芸士による実演や体験教室も開かれます。日ごろなかなか見られない研究施設の内側を、ぜひのぞいてみてください。」

日時 11月13日(水)～16日(土) 10:00～16:00
 場所 県産業技術総合研究所工芸技術センター(久野621)
 対象 16日の体験教室は高校生以上(申し込みは13日まで)・有料
 申込 箱根物産連合会 ☎32-5252

女性への暴力をなくすために 「女性への暴力をなくす運動」

11月12日(火)～25日(月)
 (25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」)

◎女性行政課 ☎3317225

夫・パートナーからによる暴力(DV)や、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などは、女性の人権を著しく侵害するもので、男女共同参画型社会を実現するために克服しなければならぬ重要な課題です。

女性行政課では、女性情報交流コーナー(市役所5階)で、書籍ビデオの貸し出しをしています。サークルや団体活動などでの学習会の教材としてご利用ください。

貸し出しビデオ一覧

- 「あなたのためのストーカー対策ビデオ40分」
- 「根拠、夫からの暴力(27分)」
- 「どうして私を殴るのですか?妻や恋人への暴力は犯罪です。(25分)」
- 「ドメスティックバイオレンス・家庭内における女性と子どもへの影響(25分)」



内閣府男女共同参画局で一般公募を行い作成された「女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク」女性の表情、握りしめたこぶし、クロスさせた腕により、女性に対する暴力を断固として拒絶する強い意志を表しています。

身近にある 小田原の史跡

史跡を訪ね、シリーズで紹介します。

小田原駅周辺の史跡を訪ねて

東西自由連絡通路の工事などで、日々姿を変えていく小田原駅周辺。「小田原城まで行かないと史跡なんかいないよね」なんて思いこんでいませんか。小田原駅から歩いてたった5分で行ける史跡を、栄町で居酒屋を営む田中忠勇さんと、その常連さんの大山勝彦さん、進藤武文さんが訪ねました。

◎文化財保護課 ☎33 171 7

まず小田原駅東口の西隅には、「松本駅長殉難碑」があります。昭和16年7月の暴風雨で殉職した第7代駅長松本宇一さんを追悼して、友人だった作家の菊池寛さんが碑文を作りました。

東西自由連絡通路の仮設階段設置のため、11月いっぱいJRR東海道線下りホーム熱海側へ移設されますが、鉄道の安全のために尊い命を捧げた人がいたこ

とを記念するこの碑を、いつまでも大切に残したいものです。さて、東口から徒歩2分、お

しやべり横丁の中に「北条氏政・氏照の墓所」があります。氏政は北条氏4代目当主、氏照はその弟ですが、小田原合戦の責任をとって、今の南町にあった田村安斎邸で自害しました。その上で自害したと伝えられる生害石は、この墓所付近にあった北

条氏の氏寺伝心庵に移され、稲葉氏が墓所を整備して今に至ります。昭和23年に市の指定史跡になりましたが、地元の人たちがこの墓所を清潔にしていることに、3人はとても感心しました。

続いて向かったのは、曹洞宗高長寺。西口から5分少々の所にあり、山門をくぐる、右手に青々と葉を茂らせた大きな木が目に入ります。市指定の天然記念物で知られる、高長寺のハククレンです。白い花



北村透谷(左)と浅田鉄風(右)の墓

をつける3月ごろに訪れる人も多いのですが、今はひっそりしていました。

ここには、明治浪漫主義文学の先駆者で、27歳の若さで亡くなった北村透谷と、江戸後期の文政文壇に、水戸で最後の幕府公認の仇討ちを成し遂げ「文政曾我」と称えられた小田原藩士の浅田兄弟の兄鉄威の墓があります。

ほかにも、小田原駅から歩いて5分程度の範囲には史跡が多くあります。待ち合わせの合間に、ふらっと立ち寄ってみてください。

自分たちが今歴史の中に生きていることを実感。田中忠勇さん

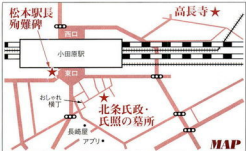
小田原駅から徒歩5分以内といえは、とてもにぎやかな場所にもかかわらず、そこにある史跡の中に一歩踏み込むと、まちの喧嘩が湧き、とても不思議な空間に迷い込んだようでした。史跡の話に耳を傾け、聴けられた説明板を感じ、昔の記憶を甦らした碑文に感動し、過去の歴史に時が過ぎるのも忘れのほどでした。史跡を訪ねると、すぐそこは思い慣れた繁華街。賑々しいけど少し懐かしさを感じる自分の住むまちが、そこにはありました。「僕らは歴史の中に生きていくんだ」とそのとき実感しました。

日々の忙しさの中、しばしば現実から離れて、小田原の、そして自分の住むまちの歴史の奥深さを感じ、とっつちを待たず気分になりました。

田中さん(左)、進藤さん(中)、大山さん(右)



北条氏政・氏照の墓所



小田原・城下町大使 小田原評定衆による
板橋 秋の交流会

紅葉の美しい松永記念館で、
 コンサートやフランス料理の
 シェフが作るおいしいブイヤベースを
 楽しむことができます。
 秋の一日を、板橋で
 ごゆっくりお過ごしください。
 市市民交流課 ☎33-1703



期日 **11月24日(日)** 場所 **松永記念館**



庭園コンサート(入場自由)

バイオリン 12:00~12:45

小田原評定衆 白井 英治さん

琴 10:30~11:30、13:30~15:00

大木 靖子さん、二見 道子さん

食の楽しみ

11:00 から、それぞれ限定300食。当日先着順。(食のチケットをお求めください。)

小田原新名物鍋ブイヤベース(500円)

小田原・城下町大使 鈿持 恒男さん
 日本エスコフイエ協会



手打ち蕎麦(200円)

遠州そば食文化研究所
 小田原評定衆 溝口 久さん、松本 芳廣さん、
 吉村 正信さんほか

板橋散策

板橋の散策をお楽しみください。
 山月・皆春荘・古稲庵では、小田原ボランティア
 ガイド協会メンバーがご案内します。



※広報おだわらいふ10月15日号でお知らせした「紅葉の庭園・秋のトーク&トーク」は、申し込みを締め切りました。

「梅と小田原城」の
イラスト入り年賀はがき

観光小田原のPRに一役

市市民交流課 ☎22-6002

11月1日(金)から販売される年賀はがきに、「梅と小田原城」のイラスト入りのものが登場します。1枚55円(寄付金付き)で、神奈川県内のみの限定販売です。
 新年のごあいさつに、地元のイラストの入ったこのはがきをぜひご利用ください。

販売開始
 11月1日(金)から

販売場所
 県内の
 各郵便局



わが歲月

北條秀司

日本放送出版協会

五月、わたしは一家を率いて国府津に移った。支線駅の小田原では弟が東京へ通うのに不便だったので、とりあえず国府津に住み、わたしが小田原へ通勤することにした。

(略)

国府津には二ヶ月くらい、しかも住まなかったが密柑山を背後にした海沿いの長閑な町で、宿場外れの銭湯へ行くのに往復三十分くらいかかった。町並みのうしろはすべて海岸でたえず潮騒の音がきこえた。父は毎日釣まいたいに砂浜に出て、魚釣りを見物していた。釣り好きの人と親しくなったり、黒鯛などを貰って来たたりして、毎日新鮮な魚が安く食べられて、父も母もはじめて経験する海岸生活をとてもよくこんだ。いいことをしたとわたしは思った。

(略)

駅前に行くとき正面の大時計の下にラジオ台が作られてあった。駐屯部隊の将官達が元氣よく集まっていた。空は抜けるように青かった。広場にはソコソコの風もなく、群がる人波の上に熱気が火照っていた。日盛りで酷暑だったと思うが、その暑感が記憶にないのは、やはり緊張していたためであろう。

(略)

やがて和田アサウンサーの莊重な言葉が短く終り、玉音がラジオから流れ出した。皆、直立不動の姿勢で固唾をのんだ。

(後略)



第15回芸術選奨文部大臣賞を受賞した「北條秀司戯曲道集」



荒久海岸から望む旧田

93年の生涯に、230あまりの劇作を生み、わが国最高の劇作家と評される北條秀司。今年は、秀司生誕百年の節目の年にあたります。

北條秀司(本名飯野秀一 1902・明治35〜1996(平成8))は、大阪市の材木商の家に生まれました。小田原のかかりは、昭和3年、勤めていた日本電社が新たに設立した箱根登山鉄道株式会社から始まります。幼なじみの武田美和子を大阪から呼び寄せた結婚、その翌年長女美智留の誕生、そして門下となるため岡本綺堂宅へ訪問し、綺堂から「北條秀司」のペンネームを授かり、她女作「表彰式前後」を新橋演舞場で上演するなど、秀司の人生の節目は主に小田原居住時代に訪れています。



劇作40周年記念「王将」公演記者発表会にて(右は坂田三吉役の綺形肇さん)

「文楽」は劇中のセリフをめくって大阪府・市、議会と対立し、「文楽事件」を起こした作品としても演劇史に残っています。また、今年50回という記念すべき公演を開催したアマチュア劇団「こゆるぎ座」との交流も、戦後最も多くのこのころからのごことです。「箱根口」の海岸に飯高を定めると、待ち構えた土地の演劇青年族が殺到した。「晩劇団」こゆるぎの面々である。「晩劇団」日本の杉浜でやった。大島の暗煙をバックに(右)の稽古場だった。「演劇太平記」毎日新聞社)とあるように、秀司はこの劇団を愛し、あなたがかく見守りました。「わが歲月」は、秀司が生まれてからの昭和20年の終戦までの44年間を綴った半自叙伝と言えるもので、昭和56年4月、秀司が78歳のときに出版されました。初めて小田原に居住したときの様子や、妻を大阪から迎えたこと、そして、箱根の観光振興に奮闘した前と、そして昭和20年8月15日小田原駅前で、玉音放送を聞いたときのもよみが描かれ、その時々「時代」が影を落しているさまざま表情の小田原が登場します。

師岡本綺堂の死を契機に、劇作家として独立するため会社を辞め東京に転居しますが、戦時中には箱根の疎雑に疎開し、戦後の昭和21年から約2年間再び小田原の人となり、北條戯曲の中でも名作といわれる「王将」や「文楽」もこの2度目の小田原時代に書かれたものです。辰日柳太郎が坂田三吉を演じ大人気を博した「王将」は、その後映画化(坂東妻三郎主演)もされ、村田秀雄の歌謡曲にもなっており、多くの人々に永く愛されています。

いま小田原文学館では、特別展「生誕100年―北條秀司の偉業と生涯―」を開催中です。文学碑「北條秀司碑」も建立されたばかりです。秋が深まりゆく文学館で、小田原とかかわりの深い偉大な劇作家を偲んではいかがでしょう。

輝く小田原人

おっとりとした心穏やかなヴァイオリニスト

白井 英治さん

二宮町在住

白井さんは、小田原に育っている多彩な音楽の中で、オーケストラについて語るときに欠かせない存在だ。市民が支えるプロのオーケストラとして平成7年12月に誕生した「小田原室内合奏団」の演奏会で、そのつややかな音色に魅了された方も多いだろう。

多くのオーケストラや合奏団で、コンサートマスター・ソリストとして活躍するほか、地域に密着したコンサートや市民オーケストラでの指導で、多忙な毎日を送っている白井さんは、小田フィル(小田原フィルハーモニー交響楽団)の練習に来るとホッとするそうだ。「いろいろなオーケストラを見ているが、小田フィルは家族的な感じだ。小田原には毎週のように指導に来ていますが、電車に乗っているときと見ると、酒匂川あたりの景色が好きですね」。

白井さんとヴァイオリンとの出会いは、ごく自然なものだった。「父がヴァイオリンを教えていたんです。ですから始めたのは4歳くらいでしょうか。最初は、しゃもじに2本弦を張ったおもちゃのヴァイオリンでした。父に感謝しているのは、練習のときに、いわゆる練習曲ではなくチャイコフスキーのコンチェルト(協奏曲)とかバガニニの曲とかを弾かせてくれたことです。主な曲は小学生のときにだいたい弾いたかな。こう

いった曲に子どものころに出会えたのは私の財産ですね」。白井さんはさらりと言うが、有名なチャイコフスキーコンクールの課題曲としても知られる曲や、超絶技巧を駆使した難曲を、小学生時代に弾いていたとは恐れ入る。

しかし、高校に入るまでは音楽方面に進むつもりはあまりなかったそうだ。「家の中にいつも音楽が流れているような環境ではありましたが、ヴァイオリンは趣味の一つだったので。中学生のときに、父に連れられて小田フィルの団員になり、小田フィルとはそれ以来のおつきあいになります。当時の指揮者の横山健治さんが随分コンチェルトを弾かせてくださいました。私は小田フィルに育てられたようなものなんです。その後、「薦められるまま受験したら受かってしまっ」て東京芸大附属高校に入学。



平塚市生まれ、東京芸術大学卒。東京芸術大学非常勤講師。小田原フィルハーモニー交響楽団トリーナー(指導者)、小田原ジュニア弦楽合奏団団長、芸大フィルハーモニーコンサートマスター、小田原室内合奏団でも活躍中。



芸大卒業後の活躍は周知のとおりだ。「生の芸術に触れることはとても大切だ。絵などもそうですが、本物を前にしたときの感動は全然違いますよね。音楽は瞬間的な芸術ですが、心に残るものです。ぜひ多くの方に聞かされていただきたいですね」。

地域に根ざした活動を行い、「芸術文化は生まれながらに備わっている生命力の根本なのでは、と思います。生きていくのに必要なものは、そこから生まれるのではないのでしょうか」とは笑む白井さんは、自分の音楽を通じて、これからも希望や夢を与え続ける。

小田原 彩時記

小田原城ミュージゼ、 秋の模様替え

3月のオープン以来大人気の美術館、小田原城ミュージゼ。今回、一部模様替えを行い、初公開の資料4点を展示します。ぜひご覧ください。

時間 9時~17時

場所 小田原城常盤木門

入場料 大人800円、小中学生400円

※天守閣との共通券 大人900円・小中学生450円

◎小田原城ミュージゼ ☎22-3823



アイリス文花瓶
ドーム

小田原城特別展

神楽面一失われた村の神楽一

日時 11月2日(全)~12月1日(日)
9:00~17:00
(入城は16:30まで)

場所 小田原城天守閣
◎小田原城天守閣 ☎22-3818

小田原城菊花展

期間 11月3日(夜)~17日(日)

場所 小田原城天守閣広場
◎小田原市観光協会 ☎22-5002

心におみやげ、
見つけて小田原。

スポーツの



実りの

秋を 楽しもう!

すっかり城下町おだわらの秋の風物詩となった「ツーデーマーチ」。今年は、西さがみ連邦共和国の建国1周年を記念して、「湯河原・真鶴コース」と「箱根コース」を新設し、評判は上々。今年も、全国から参加者がやってきます。ゆっくり歩いて、豊かな自然を満喫したあとのお楽しみといえば「農業まつり」。子牛や子ぶたと遊べるコーナーは、毎年子どもたちに大人気です。いい汗をかいて、新鮮な農産物を味わい、みんなで秋の一日を健康的に楽しみましょう!

第4回城下町おだわら ツーデーマーチ

—西さがみ連邦共和国建国記念大会—

📍ツーデーマーチ実行委員会事務局 ☎38-1198

期日 **11月16日(土)・17日(日)**
(雨天決行)

当日の申し込みできます
(定員あり)。



16日(土)には、
小田原・
城下町大使
阿藤快さんが
やってくる!

- 16日(土)
尊徳(二宮金次郎)・富士見コース 10・20・30km
湯河原・真鶴コース(集団歩行) 20km
- 17日(日)
太閤・一夜城コース 10・20・30km
箱根コース(集団歩行) 20km

主催場

湯河原中学校(湯河原・真鶴コースのスタート)、箱根間所跡(箱根コースのスタート)、小田原城址公園二の丸広場(その他のコースのスタート、すべてのコースのゴール)
当日参加費 一般2,000円、中学生以下200円

農業まつり

📍農政課 ☎33-1494

日時 **11月16日(土)・17日(日)**
9:30～16:00
(17日は15:00まで)

場所 **城址公園内二の丸広場**

※車でのお来場はご遠慮ください。



内容 農産物の展示・即売、もちつき、ふるさとの味コーナー、乳牛の展示、子ぶたと遊ぶ会、おはやし、北條太鼓、フワフワおさるぼりん(エアトランポリン)ほか